

資料 2 - 2

分科会 2

【まちづくりの方向性】

地域コミュニティ

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

・人を募集したい、参加したい双方のマッチング
 ・活動している人を認知してもらう
 ・世代間交流を活発化させる

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

・デジタルコンテンツを確立
 ・ちょみっとの精査を

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

地域コミュニティ

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

性別世代を超えて多様な市民が触れ合う機会を増やす

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

活動拠点の整備、実施プログラムの開発、運営体制の見直しを

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

農業・生涯学習・映画のまち・スポーツ地域コミュニティ etc.

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民同士の繋がりを生み、文化や歴史、技術などを伝承する

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

市民同士のマッチングを容易に

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

地域コミュニティ

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布に住まう人が、必要に応じて必ず頼れる場所がある状態を目指す

自分の活躍できる場所がある状態を目指す

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

・デジタル化を進め、調布にある多様なレイヤーの“よりどころ”（場所）や多様なプレイヤー（個人・団体）を可視化する

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

地域コミュニティ・人権

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

いろんな世代がアクセスしやすいコミュニティの構築

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

地域コミュニティへの参加のハードルを下げる

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

地域コミュニティ

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市外からの転入者などコミュニティに属していない人を地域の課題解決に巻き込む

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

わかりやすく、多様な手段で参加導線を構築

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

地域コミュニティ

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

誰もが安心と活躍の場を得る

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

地域コミュニティ活動への参加を促進

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

性別や世代を超えて多様な市民同士がつながれる、暮らしやすいまちづくり

【基本的取組】

・安心と活躍の場があるまちにするため、デジタル技術を活用しながら市民同士がいつでも容易に繋がれるしくみを構築する。

《第6回当日議論Memo》

- ・自治会に加入する催し支援があればよい
- ・コミュニティへの入り口が見えにくいのが課題
- ・常日頃からつながっているとよい。個人が作る網の目があればよい。
- ・キーとなる人を探すのも難しい...
- ・小さなつながりから地域コミュニティの一員が実感できれば。（例・野菜が目当てで地域のイベントに参加することから）
- ・つながりのきっかけを増やす
- ・ゆるいつながりも大事（強いつながりばかりが欲しいわけではない。）
- ・コミュニティにどう入っていく？コミュニティに入る（入る側、受け入れる側双方にとって）メリットとは？
- ・コミュニティで具体的に何をするのか。

※第6回案から微修正

【まちづくりの方向性】

共生社会の充実に向けて性別や世代を超えて多様な市民同士がつながれる、暮らしやすいまちづくり

【基本的取組】

- ・安心と活躍の場があるまちにするため、デジタル技術を活用しながらだれもがいつでも容易につながれるしくみを構築する。

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

- 「安心」：つながりがあることにより必要に応じて必ず頼れる場所がある状態を目指す。小さなつながりから地域コミュニティの一員が実感できれば（つながりがあることの安心感）。災害時の共助（20人知り合いがいれば何かあったときに思い出してくれる??）。防災・防犯。
- 「活躍」：自分の活躍できる場所がある状態を目指す。活動している人を認知してもらう。自分の仕事を活かして地域で活躍できる。キーとなる人を探すのも難しい...→発掘と見える化が必要。
- 「デジタル技術」：参加したい人と参加してもらいたい人とのマッチングや情報発信。コミュニティ参加への入り口を作る・見える化する。つながりのきっかけを増やす。デジタル化を進め、調布にある多様なレイヤーの“よりどころ”（場所）や多様なプレイヤー（個人・団体）を可視化する
- 「だれもが」：性別・世代・国籍問わず。LGBTQにも配慮。
- 「いつでも容易に」：デジタルの活用。自治会に加入する催し支援があればよい。地域コミュニティへの参加のハードルを下げる。わかりやすく、多様な手段が必要。気楽さ。災害時も含めて。
- 「繋がれる」：ゆるいつながりも大事。つながらなくてもいいし、つながってもいい。強いつながりばかりが欲しいわけではない。→でもつながる間口がある。つながることができる。災害時に声を掛け合える。

共生社会の充実（「①地域コミュニティ」「②LGBTQ」「③国際交流」） 3 / 4

LGBTQ

国際交流

【まちづくりの方向性】
 多様性への理解・共生が強み。（発達支援や障がい者支援・ママサポートなど）
 しかしLGBTへの受け皿となる仕組みづくりが遅れている
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

一人ひとりの個性・特性を理解し合い・共に助け合い・心地よく暮らす
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

”男女”という区分会を超えた「ジェンダーサポートセンター」のようなネーミングでだれもが暮らしやすい仕組みづくりを
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
LGBTQ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布が誰にとっても、自分が認められていると思えるまちを目指す
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

LGBTQはじめマイノリティ、多様な生き方に対しての施策を推進する
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
平和・国際交流
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

誰もが平和に暮らす
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

国際交流と多文化共生を促進
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
地域コミュニティ・人権②
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

多種多様な地域の構築
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

LGBT等の人権問題の事業を（発信を積極的に）
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
人権・LGBTQ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

誰もが心地よく暮らす
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

人権啓発・多様性への理解を促進
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
 性別や世代を超えて多様な市民同士がつながれる、暮らしやすいまちづくり
【基本的取組】
 ・一人ひとりの個性・特性を認め合い、誰もが心地よく暮らせるまちにするため、～～～を～～～する<LGBTQ>。
 ・共生社会の充実に向けて、～～～を～～～する<国際交流>。

共生社会の充実（「①地域コミュニティ」
「②LGBTQ」「③国際交流」） 4 / 4

《第6回当日議論Memo》

◎LGBTQ

- ・まず理解を促進する。受け入れやすくするための理解を求めることが必要。（×一方的な押し付け）
- ・SNSでの発信だと難しい中高年層にどうアプローチする？

◎国際交流

- ・現在はサウジアラビアやカナダのケベック州と文化的交流を行っている
- ・姉妹都市を持っているというのはよいこと
- ・交流が進められる様々な手法があればよい。
- ・サウジアラビアが保育園に視察に来ていた
- ・国際交流を教育の現場にも取り入れると親世代に対しても国際交流への意識がじわじわ広がる
- ・サウジアラビアとの交流の取組（大人向け）があるのか？各国の料理を紹介するような事業をきっかけに交流できるかも
- ・子どもたちはスポーツ（サッカー）で繋がって、親同士は料理をきっかけに繋がる、みたいなこともあった
- ・調布で各国の飲食店を紹介する地図がほしい

※修正案（LGBTQと国際交流の部分を合体させて「共生社会の実現」としてまとめる案）

【まちづくりの方向性】

共生社会の充実に向けて性別や世代を超えて多様な市民同士がつながれる、暮らしやすいまちづくり

【基本的取組】

- ・誰もが心地よく暮らせるまちにするため、一人ひとりの個性・特性を認め合う。

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

- 「誰もが」：国籍・性別・年齢に関わらず。LGBTQはじめマイノリティ、多様な生き方に対しての施策を推進する。（国際交流の要素もここに取り入れる）
- 「心地よく」：一人ひとりの個性・特性を理解し合い・共に助け合い・心地よく暮らす。誰にとっても、自分が認められていると思えるまちを目指す。国際交流と多文化共生を促進。
- 「個性・特性を認め合う」：交流が進められる様々な手法があればよい。LGBTQ・国際交流を教育の現場にも取り入れると親世代も含めて意識が広がる。まず理解を促進する。受け入れやすくするための理解を求めることが必要（×一方的な押し付け）。SNSでの発信だと周知が難しい中高年層にどうアプローチする？

【まちづくりの方向性】
スポーツ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

より多くの調布市民の健康
 保持、健康増進の

ため、

自由にスポーツを実施できる
 環境を増やす

する。
※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】
スポーツ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

- ・市民の健康増進のためのスポーツ振興
- ・思い立った時に運動できる環境づくり

ため、

- ・スポーツ施設利用のハードルを下げる
- ・プロスポーツと連携したスポーツクラブの運営(サッカークラブ)
- ・多摩川サイクリングロードの整備(歩車分離や幅員拡大、休憩スペース、トイレの整備)

する。

【まちづくりの方向性】
レクリエーション
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民が気軽に市内イベント
 に参加できるようにする

ため、

多様な市民がイベントを開催・参
 加できる定番場所を用意

する。
※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】
スポーツ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

誰もがスポーツを楽しみ元気
 になる

ため、

スポーツ振興を推進

する。
※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】
スポーツ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民の健康寿命を延ばす

ため、

市民が気軽に運動できる場
 所を増やしガイド

する。
※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】
 スポーツを通じた活力のあるまちづくり

【基本的取組】

- ・世代や障害の有無に関わらずだれもが健康に暮らすことができるまちにするため、気軽に運動できる環境を作る

《第6回当日議論Memo》

- ・きれいにまとまっているパートだと思う

※第6回案から修正なし

【まちづくりの方向性】

スポーツを通じた活力のあるまちづくり

【基本的取組】

- ・世代や障害の有無に関わらずだれもが健康に暮らすことができるまちにするため、気軽に運動できる環境を作る<市民の健康>

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「世代や障害の有無に関わらずだれもが」：多様な市民が。より多くの子ども達が。パラリンピックのレガシー。パラスポーツを推進しているという強みがある。障害福祉や高齢福祉分野との連携。

「健康に暮らす」：より多くの調布市民の健康保持、健康増進を目指す。市民の健康増進のためのスポーツ振興を行う。市民の健康寿命を延ばす。

「気軽に運動できる」：自由にスポーツを実施できる環境を増やす。スポーツ施設利用のハードルを下げる。多様な市民がイベントを開催・参加できる定番場所を用意する。思い立った時に運動できる環境づくりをする。

【まちづくりの方向性】
スポーツ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布市民へのスポーツ振興の
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

FC東京との連携を強化し、市民との取組の機会を増やす
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
スポーツレクリエーション
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

健康づくり・観光資源・教育に活かせるスポーツ産業の実現
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

スポーツを利用しやすい街づくり
 スポーツ啓発事業の推進（FC東京事業等）
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
レクリエーション
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

活力のあるまちにする
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

レクリエーション事業を推進
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
スポーツ・生涯学習
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

より多くの子ども達がスポーツに関心を持てるようにする
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

学校部活動のあり方を変える
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
スポーツ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

観光コンテンツとしてのスポーツ振興
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

・FC東京との連携強化
 ・武蔵野の森スポーツプラザでのイベントの積極広報
 ・飛田給駅周辺の店舗や環境整備(電車を降りた瞬間から雰囲気を感じられるように)
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
スポーツ・レクリエーション
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

スポーツを見る、スポーツをするさまざまな形でのスポーツへの関わりを増やす
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

・市内あるプロスポーツチーム・個人等（パラ含む）と連携し、より多くの機会を創出する
 ・スポーツを楽しみたい人が創出された機会を見つけられるよう情報を一元化・発信する
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
 スポーツを通じた活力のあるまちづくり

【基本的取組】

・誰もがさまざまな形でスポーツに親しむため、プロスポーツチーム・個人（応援アスリートを含む）等多様な主体と連携し、スポーツに関心を持ち、親しむ機会を創出・発信する

《第6回当日議論Memo》

- ・「関心を持てる機会を創出」の文言に教育の意味合いも含んでいるのでは。
- ・スポーツは何のためにやるのかを考えたとき、健康だけでなく精神的な面（フレンドシップ、ファイティングスキル、スポーツマンシップなど）で教育にも役に立つ→調布としてどの部分を強めていくのか、又は広く浅くなのか。
- ・身近なところに大きな大会のレガシーに触れ合う機会があれば。小さなころから身近に触れられる。常に近くにある。
→文言に「身近に」の要素を盛り込んだほうがよい。「身近に」という文言が入るとより近くにスポーツを感じられる。
- ・スポーツは言葉が要らないので外国人も近くに感じられる→地域コミュニティにもつながるのでは
- ・スポーツへの関わりが重要

※第6回案から修正なし ★「身近に」の要素を文言として盛り込むか？

【まちづくりの方向性】

スポーツを通じた活力のあるまちづくり

【基本的取組】

・誰もがさまざまな形でスポーツを楽しむため、プロスポーツチーム・個人（応援アスリートを含む）等多様な主体と連携し、スポーツに親しむ機会を創出・発信する

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「誰もがさまざまな形で」：スポーツを見る、スポーツをするなどさまざまな形でのスポーツへの関わりを増やす。スポーツは言葉が要らないので外国人も近くに感じられる。

「多様な主体と連携」：スポーツ啓発事業の推進（FC東京事業等）。保育園にプロスポーツ選手が来た。プロスポーツチーム・個人等（パラ含む）と連携し、より多くの機会を創出する。

「スポーツに親しむ」：スポーツを見る・する機会を身近に感じられる。

見る・するだけでなく“支える”視点（RWC・オリパラのレガシーの一つとして） ←New!

「機会を創出・発信」：「機会を創出」の文言に教育の意味合いも含んでいるのでは。精神的な面で教育にも役に立つ。

【まちづくりの方向性】

生涯学習
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布が生涯学べるまちであるために

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

する。

- ・市内の人的資源を顕在化、可視化
- ・さまざまな時間帯・媒体での学びの展開

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

生涯学習・PR
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

多世代が自由に学ぶ機会を得る

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

する。

学習機会の普及啓発活動を推進

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

生涯学習
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

多世代市民の学習参加を促進する

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

する。

わかりやすく、多様な手段で参加導線を構築

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

生涯学習
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

多世代が利用したくなるように。調布市自体を学びの場にする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

する。

SNSを利用した情報の発信。発信側にリタイヤ世代に協力していただき役立つ知識の発信

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

産業・農業・生涯学習・芸術・映画のまち・歴史etc.
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民が得たい情報によりアクセスしやすくする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

する。

VR, AR技術も活用し、より情報にアクセスしやすくなるようなポータルサイトを(市民と共に)作成

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

活力のある市民が多い
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民による市民のための生涯学習を行うことで生涯を通しての存在意義(やりがい)・コミュニティづくりなどが得られる

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

する。

より活力・能力のある人財が集まってくるようなまちづくりとしてスタートアップを支援する仕組みや環境整備を

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

生涯を通して多世代が自由に学べるまちづくり
技術や文化、歴史、平和の尊さを継承し、〜〜なまちづくり

【基本的取組】

- ・多世代が自由に学べる機会を作るため、デジタル技術を活用して情報を発信するなど誰もが参加しやすい環境を構築する
- ・生涯を通してやりがいを感じられるまちにするため、市民が知識や経験を活かせる場を作る

《第6回当日議論Memo》

- ・サークル活動や出前講座を今はやっている
- ・社会人が参加しづらいという意見が前回出ていた。デジタル技術の活用や関心の持てる内容にすることが必要か。
- ・ミスマッチの解消が一つの課題
- ・学ぶ場がない状態が課題になる
- ・サークルに若い人が入ってきづらい
- ・生涯学習にも地域コミュニティの要素はある
- ・教育支援もひとつのコミュニティになりうる

※修正案（「国際交流」と一緒に考えていた「生涯学習」を独立させたうえで、「芸術・歴史文化」「平和」と合体させる案）

【まちづくりの方向性】

歴史や芸術・文化を後世に紡ぎ、幅広い世代が愛着を持ち続けられるまちづくり

【基本的取組】

- ・生涯を通して多世代が自由に学び生きがいを感じられるまちにするため、一人ひとりの知識や経験を活かせる場を構築し、誰もが参加しやすい環境を整備する。＜生涯学習＞

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「生涯を通して」：子どもから高齢者まで色々な人が参加できるプログラムがある。社会人が参加しづらいという意見が前回出ていた。デジタル技術の活用や関心の持てる内容にすることが必要か。

「多世代が」：生涯学習にも地域コミュニティの要素はある。教育支援もひとつのコミュニティになりうる。サークルに若い人が入ってきづらい。学ぶ場がない状態が課題になる。地域の経営者もたくさんいる。発信側にリタイヤ世代に協力していただき役立つ知識の発信。多世代の交流の要素。

「自由に学び」：学ぶ場がない状態が課題になる。好きなことを学ぶ場。

「生きがいを感じ」：活躍の場がある。

「一人ひとりの知識や経験を活かせる」：市内の人的資源。地域の経営者もたくさんいる。発信側にリタイヤ世代に協力していただき役立つ知識の発信。

「誰もが参加しやすい環境」：ミスマッチの解消が一つの課題。デジタル技術の活用。さまざまな時間帯・媒体での学びの展開

【まちづくりの方向性】
芸術・歴史文化・平和事業
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

見る・知るだけでなく体験
できる継承方法充実
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

PR・広告の充実・アナログ
→デジタルへ
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
芸術・文化活動のインフラ
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布の芸術・歴史文化を後
世に受け継いでいく
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

芸術・文化施設を整備
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
歴史
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布市の歴史を調布市民自
身が興味を持ち後世に紡ぐ
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

市民に認知されやすい歴史
を語る発信基地を構築
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
芸術・歴史文化
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

私たちが体験し続けられる、愛着を持ち続けら
れる、芸術・歴史文化であるために
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

・歴史文化のコンテンツ化、差別化するための
戦略づくり
・体験できる場、機会等の情報収集・発信
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
芸術・文化
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

子どもたちが芸術・文化に
興味関心を抱けるようにす
る
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

体験学習の機会を促進
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
歴史
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

幅広い世代が調布の歴史に
愛着を感じられるようにす
る
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

文化財等の保全と継承を
※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
調布の歴史や文化を後世に紡ぎ、幅広い世代が愛着を持ち続けられるまちづくり
【基本的取組】
・芸術・歴史文化を後世に受け継ぐため、歴史・文化財を保全するとともに、体験学習等の場を創出する。
・だれもが芸術・文化に興味関心を持ち愛着を持てるようにするため、デジタル技術を活用しながら、芸術・歴史文化を魅力的に発信する。

《第6回当日議論Memo》

- ・このままでOKでは

※修正案（「国際交流」と一緒に考えていた「生涯学習」を独立させたうえで、「芸術・歴史文化」「平和」と合体させる案）

【まちづくりの方向性】

歴史や芸術・文化を後世に紡ぎ、幅広い世代が愛着を持ち続けられるまちづくり

【基本的取組】

- ・歴史や芸術・文化を後世に継承するため、それらの魅力や尊さを伝え、学び、触れられる機会を充実させる。
＜芸術・歴史文化＞

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「後世に受け継ぐ」：調布の芸術・歴史文化を後世に受け継いでいく。興味関心を持つことが前提。

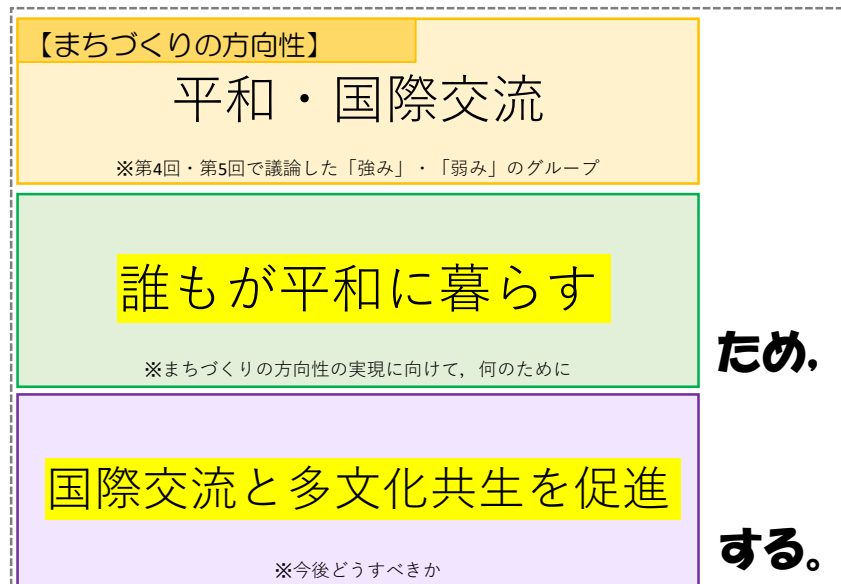
「魅力や尊さを伝え」：PR・広告の充実・アナログ→デジタルへ。市民に認知されやすい歴史を語る発信基地を構築。

歴史文化のコンテンツ化、差別化するための戦略づくり。

「学び・触れられる機会を充実」：ハード（施設や文化財の保全）・ソフト（展示・講演・プログラム）両方の環境づくり。

見る・知るだけでなく体験できる継承方法。芸術・文化施設を整備。

体験学習の機会を促進する。



【まちづくりの方向性】

生涯を通して多世代が自由に生涯学べるまちづくり
技術や文化，歴史，平和の尊さを継承し，～～～なまちづくり

【基本的取組】

- ・平和の尊さを風化させず継承していくため，見る・知るだけでなく体験できる方法を充実させる。

《第6回当日議論Memo》

- ・学校教育に頼りがちな「平和」事業をどうするか？
- ・調布市内でも散歩コースの中でも学べることはたくさんありそう。市の中にあるものを活用できるかも？
- ・イベントがあるとよい。例えば映像（プロジェクションマッピング）で学ぶ機会をつくるなど？話だけでなく映像のほうが記憶に残りそう。

※修正案（「国際交流」と一緒に考えていた「生涯学習」を独立させたうえで、「芸術・歴史文化」「平和」と合体させる案）

【まちづくりの方向性】

歴史や芸術・文化を後世に紡ぎ、幅広い世代が愛着を持ち続けられるまちづくり

【基本的取組】

- ・平和の尊さを風化させず継承していくため、見る・知るだけでなく実感できる機会を充実させる。＜平和＞

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

- 「風化させず継承」：学校教育。ピースメッセンジャー。イベントがあるとよい。例えば映像（プロジェクションマッピング）で学ぶ機会をつくるなど？話だけでなく映像のほうが記憶に残りそう。一里塚。
- 「実感できる機会」：調布市内でも散歩コースの中でも学べることはたくさんありそう。市の中にあるものを活用できるかも？

【まちづくりの方向性】

産業・農業

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

チャレンジを応援できるまちであるために 調布の農業が残り続けるために

ため。

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

・事業を起こす、事業に参画、事業を広げるしくみづくりを実施
・農業のコンテンツ化

する。

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

産業・農業

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

人のチャレンジを応援できるまちづくり。

ため。

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ハード面（会場の斡旋）ソフト面（補助金など）の充実

する。

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

産業・観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布で起業したい、何かを始めたいと思ってもらえるようにする

ため。

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

行政・商店街等がスタートの支援、手厚いバックアップを行えるように

する。

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

産業

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

チャレンジしやすい活気のあるまちとする

ため。

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

創業・起業支援を推進

する。

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

産業

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布が隣の人の手伝いが仕事（自分の経済的/精神的な利益）になるような街になる

ため。

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

起業、事業継承、ボランティアなど人のために働きたい人のネットワークを構築

する。

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

産業・農業②

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

たくさんの人の出番を作る

ため。

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

複業の斡旋・頑張っているひとのクローズアップ（拡散）

する。

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

産業

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

・起業しやすいまち
・チャレンジしたい人がチャレンジできる、チャレンジしたい人を応援できるまち
・デジタル化の推進

ため。

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

・ハード、ソフト面での起業支援
・T1特区を作って、積極誘致
・電通大とのコラボでノウハウ取得、学生にはインターン体験、起業チャレンジ等ができるメリットを

する。

※今後どうすべきか

【まちづくりの方向性】

チャレンジを応援できるまちづくり
地域資源を活用したにぎわいとやすらぎのあるまちづくり

【基本的取組】

・あらゆる人の出番を作るため、〜〜〜などチャレンジしやすい環境整備を進める

【まちづくりの方向性】
調布”名物”が不在・魅力発信が弱い

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

① 調布市全体の特産づくりをする
② 市民に調布の魅力や“うり”を知ってもらう

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

① 観光／農業／産業の垣根を超えて特産づくりをする
② 調布お土産アンテナショップの設置や調布市全体で開催するイベントを

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
映画のまち

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

地域資源を活用したにぎわいのあるまちとする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

「映画のまち調布」を推進

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
農業

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民と農業の距離を縮める

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

市民の農業体験や調布産作物の購入など、調布の農作物に触れる機会を増やす

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
産業・生涯学習

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布市外勤務の労働者、学生が住みやすい街にする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

自宅以外のテレワークスペース、勉強できるスペースを作る

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
農業・観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布の農業と観光を盛り上げる

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

調布で作られたものを加工しておみやげに

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
農業（防災・フェーズフリー）

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

やすらぎのあるまちとする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

都市農地の保全・活用を推進

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】
人のチャレンジを応援できるまちづくり
地域資源を活用したにぎわいとやすらぎのあるまちづくり

【基本的取組】

- ・多くの人が訪れ、にぎわいのあるまちとするため、地域資源を活用し、調布ならではの魅力を創出・発信する。
- ・やすらぎのあるまちにするため、都市農地の保全・活用を推進する。

《第6回当日議論Memo》

◎産業（既存の産業の支援など）

- ・地域の商店の人との関わりが情報源になっている。個人の活動が立つとよい。
- ・調布市のお店と繋がれるようなバックアップや市民が市内のお店を使うような仕組みがあるとよい（例・市内印刷会社）
- ・一方で事業経営は努力の部分も。自助、次の世代に追いつける事業展開できるようなサポート・情報提供が必要。
- ・経済が循環する仕組み→「持続可能な」地域を作る
- ・産官学連携
- ・スマートシティ（共有価値創造型）

◎農業（農地の活用等の視点）

- ・市民も農業に触れられるように。
- ・先端技術を活用した農業開発も取り入れては？（例・NTTの5G技術活用したトマト）農産物に高付加価値を持たせる。
- ・特産を作るとなるとよい。特産品→おみやげづくり。市内企業や大学と協働で作っていくのもよい。「共創」
- ・国際交流として食（農）を利用
- ・農業のPR不足解消が必要。
- ・農業の保全→「持続可能」の意味合いも含む

※修正案（創業支援と産業支援をひとつにまとめ、農業分野については、農の活用の観点で基本的取組を検討した案）

【まちづくりの方向性】

地域資源を活用したまちの魅力向上と地域経済の活性化

【基本的取組】

- ・地域経済の発展のため、多様な主体が連携しながら新たな価値を共創し、経済が循環する持続可能なまちを目指す。＜創業支援・産業支援・産官学連携などの要素＞
- ・魅力にあふれ、にぎわいのあるまちとするため、地域資源を活用し、調布ならではの魅力を創出・発信する。＜産業・農業の魅力向上の視点＞

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「多様な主体」：市民同士の助け合い。個人の活動が立つとよい。調布市のお店と繋がれるようなバックアップや市民が市内のお店を使うような仕組みがあるとよい。産官学連携。スマートシティ（共有価値創造型）。

「共創」：市内企業や大学と協働で作っていくのもよい。

「にぎわいのあるまち」：調布の農業と観光を盛り上げる

「地域資源を活用」：調布で作られたもの。国際交流（サウジアラビア、カナダ）として食（農）を利用

「調布ならではの魅力」：特産を作るとなるとよい。特産品→おみやげづくり。先端技術を活用した農業開発も取り入れては？（例・NTTの5G技術活用したトマト）農産物に高付加価値を持たせる。

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民がわくわくする観光資源構築

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

観光と飲食の連携・わくわくできるイベントの発見・発信
調布のおみやげの確立

※今後どうすべきか

ため。

する。

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民視点の観光振興

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

- ・公園や多摩川河川敷にふらっと立ち寄れる飲食スポットを整備する(PFI活用?)
- ・自然と共存した憩いの場を整備する(京王多摩川駅周辺など)
- ・観光スポットというより、散歩コースを整備する

※今後どうすべきか

ため。

する。

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

地域資源を活用したにぎわいのあるまちとする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

市内事業所・事業者との連携を促進

※今後どうすべきか

ため。

する。

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市民がワクワクできる街にする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

全市民が集まる一大イベントを開催

※今後どうすべきか

ため。

する。

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

外から来た人も調布を楽しむことができ、調布に住む人自身も、楽しめる
(調布に住む人が調布のアンバサダーになれる)

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

- ・地域性の高い飲食店等を増やす
- ・調布土産や特産など、買っていきたい、渡したいものをつくっていく

※今後どうすべきか

ため。

する。

【まちづくりの方向性】

多くの人々が調布で楽しむことができ、市民もわくわくできる、にぎわいを感じられるまちづくり

【基本的取組】

- ・市民がわくわくできるまちにするため、地域資源を活用した市民視点の観光振興を展開する。

《第6回当日議論Memo》

◎観光振興（市民がわくわくする観光）

- ・おすすめルートがあると市民は「わくわく」が楽しめそう。おすすめルートを市民が投稿できると共有できてよい。
- ・「もっと知りたい」「もっと興味を持てる」「好奇心を持てる」「掘り下げたい」と思える次の一手。
- ・集って体験できるスポットがあればよい
- ・市民がわくわく＝日常に刺激があること。例えば駅前におもしろい仕掛けがあるなど
- ・当たり前にあるものが地域資源（コンテンツ）になる→知的好奇心が刺激され、まちに愛着が持てる
- ・ストーリーの掘り起こし
- ・地元の魅力を「発見」する（歴史や文化も絡めながら）

※修正案（基本的取組を修正）

【まちづくりの方向性】

多くの人を楽しむことができ、市民もわくわくするような、にぎわいを感じられるまちづくり

【基本的取組】

- ・誰もが楽しめるまちにするため、地域の魅力を再発見・創出・発信することで、人々の好奇心を刺激する。

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「好奇心を刺激」：市民がわくわくする観光資源構築。外から来た人も調布を楽しむことができ、調布に住む人自身も、楽しめる。市民がワクワクできる街にする。日常に刺激がある。例えば駅前におもしろい仕掛けがあるなど。

「誰もが」：市民も外から来た人も。

「再発見」：ストーリーの掘り起こし。地元の魅力を「発見」する（歴史や文化も絡めながら）。当たり前にあるものが地域資源（コンテンツ）になる→知的好奇心が刺激され、まちに愛着が持てる。観光スポットというより、散歩コースを整備する観光と飲食の連携・わくわくできるイベントの発見・発信

「創出」：全市民が集まる一大イベントを開催。市民だけのイベントを。調布のおみやげの確立。

→市民自身がわくわくする・魅力を感じるコンテンツをつくることで、市民が主体的に魅力を発信したくなる

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

- ・映画のまち、水木漫画の生まれたまちとして盛り上げる
- ・ロケツーリズムの推進

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

- ・映画のロケ地や漫画キャラクターを使用した観光スポットの整備(モニュメント、看板、インスタ映え狙い)
- ・映画のエキストラ出演等、参画できる仕組みを作る

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

市外の人を訪れる観光地づくり
(調布に人が滞在し、お金を落としてくれる仕組み作り)

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

- ・駅前ひろばの有効活用(民間のイベント開催)
- ・市内飲食店共同でのコンテンツ発信(デカ盛り、ホッピーなど何かに特化させる)
- ・名物のお土産を政策的に創り出す
- ・多摩川サイクリングロード沿いの施設の充実

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

観光振興

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

地域資源を活用したにぎわいのあるまちとする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

市内事業所・事業者との連携を促進

※今後どうすべきか

する。

「スポーツ」(観光面) 【再掲】

【まちづくりの方向性】

スポーツレクリエーション

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

健康づくり・観光資源・教育に活かせるスポーツ産業の実現

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

スポーツを利用しやすい街づくり
スポーツ啓発事業の推進 (FC東京事業等)

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

スポーツ

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

観光コンテンツとしてのスポーツ振興

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

- ・FC東京との連携強化
- ・武蔵野の森スポーツプラザでのイベントの積極広報
- ・飛田給駅周辺の店舗や環境整備(電車を降りた瞬間から雰囲気を感じられるように)

する。

【まちづくりの方向性】

レクリエーション

※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

活力のあるまちにする

※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ため、

レクリエーション事業を推進

※今後どうすべきか

する。

【まちづくりの方向性】

多くの人々が調布で楽しむことができ、市民もわくわくできる、にぎわいを感じられるまちづくり

【基本的取組】

・多くの人々が訪れ、にぎわいのあるまちとするため、地域資源を活用し、調布ならではの魅力を創出・発信する。

<産業・農業パートの再掲>

・多くの人々が訪れ、にぎわいのあるまちとするため、プロスポーツチーム等の多様な主体と連携し、スポーツに触れ合う機会を創出・発信する。<スポーツ>

《第6回当日議論Memo》

- ◎観光振興（市外の人を呼び込む観光）
 ・デジタル技術を活用したマップ作成

※修正案（産業・農業パートの再掲部分の修正をこちらにも反映したのみ）

【まちづくりの方向性】

多くの人を楽しむことができ、市民もわくわくするような、にぎわいを感じられるまちづくり

【基本的取組】

- ・魅力にあふれ、にぎわいのあるまちとするため、地域資源を活用し、調布ならではの魅力を創出・発信する。
- <産業・農業パートの再掲>
- ・多くの人を訪れたいと思う、魅力にあふれたにぎわいのあるまちとするため、プロスポーツチーム等の多様な主体と連携し、スポーツに親しむ機会を創出・発信する。<スポーツ視点の観光振興>

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「地域資源を活用」「調布ならではの魅力」：大規模花火大会。映画のまち。水木マンガの生まれたまち。深大寺などなど。

「多様な主体と連携」：F C東京との連携強化。オリンピック・パラリンピックの存在（調布市応援アスリート）。プロチームの存在。NTT東日本バドミントン部の活動拠点。日本車いすバスケットボール連盟との協定など。

「スポーツに触れ合う機会を創出・発信」：スポーツを利用しやすい街づくり。プロスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信→観光につなげる。武蔵野の森スポーツプラザでのイベントの積極広報。スポーツ施設を利用した大会の開催。

【まちづくりの方向性】
デジタル化
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

多世代・多言語に
適応した
情報発信をする
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

ICT等の活用を推進
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
全般的に
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

調布市の活動をいつでも誰でも知
ることができるようにする
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

主にデジタル情報発信の仕
組み、活用を刷新
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
調布市の情報整理
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

だれもが必要な時に必要な情報を
得られ、生き生きと暮らす
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

調布市のプラットフォーム
となるサイトを制作
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
防災・フェーズフリー
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

災害に強いまちとする
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

自助・共助・公助の体制を
強化
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
利便性・インフラ（ハード）
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

利便性に富んだまちとする
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

安全な交通網の検討・改善
を
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
インフラ・ハード
※第4回・第5回で議論した「強み」・「弱み」のグループ

駅前中心地の有効活用、
価値向上
※まちづくりの方向性の実現に向けて、何のために

大規模イベント開催可能な空間を
残した開発(パブリックビューイ
ングなど)
※今後どうすべきか

ため、
する。

【まちづくりの方向性】
わかりやすい情報発信

【基本的取組】

- ・だれもが必要な時に必要な情報を得られ、生き生きと暮らせるようにするため、デジタル技術の活用により情報を集約し、多世代・多言語に適応した情報を発信する

《第6回当日議論Memo》

◎防災

- ・声のかけあえるまちづくり（地域コミュニティ）
- ・防災とイベントを絡める
- ・あいさつをする関係づくり→信頼関係を築ける（警戒心を解く）
- ・防災について市の取組の情報があると市民は安心できる
- ・「多様性」という言葉も入れたい。LGBTQにとっても身を寄せやすい体育館にするような取組も必要。

◎情報発信（デジタル化）

- ・「多様性」という言葉も入れたい。
- ・言語に頼らない情報の発信（ピクトグラムなど）

※修正案（情報発信に多様性要素も盛り込み、防災要素は地域コミュニティパートに意味を盛り込んだ）

【まちづくりの方向性】

だれもが必要な時に必要な情報を得られるまちづくり

【基本的取組】

・だれもが必要な時に必要な情報を得られ、安心できるまちにするため、デジタル技術の活用により情報を集約し、あらゆる人に隅々まで情報が届くような情報発信に取り組む。

《【基本的取組】に盛り込んでいる要素の説明》※主にワークシートや第6回の議論から抜粋

「必要な時に必要な情報を」：平時も有事も

「あらゆる人に隅々まで」：性別・世代・国籍・障害の有無に関わらず誰一人取り残さない情報発信。